

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.79



テレビを見ない世代の影響

ネット情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（じのはら・かいち）

最近、小学校でも大学でも感じるのは、ニュースの内容がほぼネット経由での内容になっている生徒があまりにも多いことだ。テレビを見ていない世代ではあるが、テレビ自体はネットのモニターとして使用し、あくまでもネット系の番組を視聴している。この感覚の違いに大人は気づいているだろうか。少しはテレビを見ていると、まだ思っていないだろうか。

小学校での聞き取りでは、「野球に興味のない人」と聞くと6割ぐらいは手を挙げる。関西の子どもでも「阪神タイガース優勝」を知らない生徒が4割ほど。「ジャニーズ」が何の言葉か知らない生徒は中学生でも相当数いる。しかし、ユーチューバーの名前は10人以上知っている生徒はほぼ全員だ。

一人暮らしの大学生になると、テレビ自体を持つておらず、スマホが情報源となっている。スマホの場合はテレビと違い、お薦めされるニュースや情報は各自違ってくる。マーケティングのため、あらゆるアプリやサイトがユーザーの嗜好に合わせた提案をしているので、便利では

あるが逆に興味のない分野が広く伝わらないでいる。

東京都知事選でもSNSに頻繁に出ている候補者が2位になった。逆に有名な候補者は非難されるコメントが目立った。テレビでは特番を含め多くの番組が選挙について放送していたが、おそらくネットには上がらない。アベマTVのようにネット系ニュース番組もあるが、あえてアクセスしない限り目にすることはない。若い世代のネット視聴方法が大人世代と全く違うのだ。ショート動画で送られてくる画面を何気なく長時間見ているのだから、長い特番なんて見ている感覚がないのだ。映画のように、意気込んで見る姿勢で取り組むものとネットは違う。ショート動画の影響で同じ番組を何分も見続ける習慣ができていない。

ユーチューブばかり何時間も見て困っていると保護者からは相談があるが、何時間も同じコンテンツを見ているわけではない。次々と流れてくる動画を見ているから飽きることなく何時間も過ごしてしまうことに大人は気づいていない。テレビ番組を4時間見ると疲れると

思うが、内容が短いショート動画は集中していないので疲れないようだ。この習慣が集中力を育まないのだ。

夕方放送されるニュース番組では事件や事故のニュースを主に取り上げているが、この夕方のニュースを見ていないので「今」何が起きているのか、子どもたちは知らない。

インスタで知り合った相手に殺害された大阪の事件や、他人の画像を無断使用して殺人事件に発展した北海道での事件も子どもは知らない。神戸の大学生が宿泊先でイタズラした問題投稿や、大学生がビザ屋のバイト中に起こしたバイトテロも大学生は知らずにいる。

以前あったスシローでのイタズラ動画の事案も、最終的に17歳の少年がどうなったかを知っているのはテレビを見ている大人だけだろう。大人はバイトテロのニュースを見て、なぜ同じ事をまたやるのだろうかという疑問に思っただろうが、当の学生たちはおもしろ動画の結果を知らずにいるから繰り返すのだ。

X（旧Twitter）をニュースアプリだと思つて情報を得ようとしている学生は多い。元々テレビ局などで訓練を受けた報道陣が書いた記事を見たことがない世代には、Xで流れてくる個人の意見もニュースとして捉えてしまっている。

ある程度アナログな体験や、家族との会話の中で育っていればいいのだが、家でゲームやネットに夢中で大切な時期に家族と話をすることなく過ごしてしまうと大切な部分が欠落してしまうように思う。せめて食事の時ぐらいは、スマホではなく、相手の顔を見ながら、楽しく今日の出来事を話せる環境が必要なのではないだろうか。